因島村上海賊の日本遺産構成文化財

一、青木城跡

因島村上新蔵人吉充の居城跡。郭が5段重なり武者走りも残る。

二、白滝山（五百羅漢像）

頂上には因島村上氏の当主村上吉充が建立したと伝えられる観音堂があり、参道には一体ずつ表情のことなる約700体の石仏が並ぶ。

三、因島水軍城

「因島村上家伝来資料群」が構成文化財。

四、因島村上氏一族の墓地

因島村上一族や家臣の墓とされる宝篋印塔や五輪塔が集積。

五、青陰城跡

海城ではなく戦国山城であり長崎・青木・余崎などの連絡場所であった。

六、椋浦の法楽おどり

村上海賊の出陣・帰陣の時に、勝利や安全を祝い戦没者の追悼の為の踊り。

八、長崎城跡

因島村上氏初期の本拠地。海側には岩礁ピットも残る。航路を見張る重要な拠点。

七、地蔵鼻（鼻の地蔵）美可崎城跡

海の関所として機能した美可崎城。鼻の地蔵には悲しい伝説が残る。

村上海賊因島振興協議会　2024.3月制作
撮影：栗山撮影事務所

■ACCESS

◆車【しまなみ海道】

本州方面から
因島北ＩＣ下る　約 1.7 ㎞　5 分

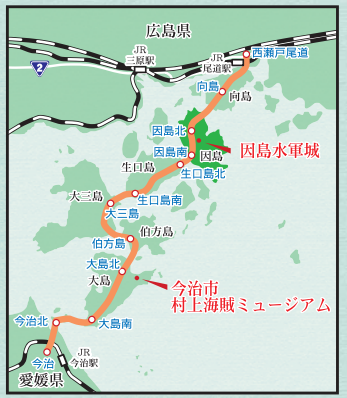
四国方面から
因島南ＩＣ下る　約 3.3 ㎞　10 分

◆公共交通機関

バス停土生港から因の島バス
因島大橋・久保田橋行きで 20 分
水軍城入口下車徒歩 10 分

◆自転車（レンタサイクル）

土生港から約 5.8 ㎞ 40 分



■INFOMATION

開館時間　午前 9：30 ～午後 5：00（入館時間 午後 4：30 まで）
※但し 1 月 2 日・3 日は、10：00 ～ 15：00

休 館 日　毎週木曜日（祝日を除く）12 月 29 日～ 1 月 1 日

観 覧 料　大人 330 円（団体 30 名以上 220 円）
小人 160 円（団体 30 名以上 110 円）
※小学生～中学生

駐 車 場　無料（50 台）第 1 駐車場・第 2 駐車場

■お問合せ先

因島水軍城
〒722-2211
広島県尾道市因島中庄町 3228-2　ＴＥＬ(0845) ２４－０９３６
（一社）因島観光協会
〒722-2323
広島県尾道市因島土生町 1899-31　ＴＥＬ(0845) ２６－６１１１

JAPAN HERITAGE
日本遺産

因島水軍城

よみがえる村上海賊の記憶

主な展示物一覧

広島県重要文化財

白紫緋糸段縅腹巻（しろむらさきひいとだんおどしはらまき）

白紫緋糸段縅腹巻１領
室町時代末期の作
村上吉充が小早川隆景より拝領

尾道市有形文化財

紙本著色村上新蔵人吉充像（しほんちゃくしょくむらかみしんくろうどよしみつぞう）

ほたて貝兜

村上海賊の大将の兜

村上海賊から灯台へ

大浜埼灯台　令和６年（2024 年）８月、国重要文化財指定

明治 27 年（1984 年）、来島海峡を補完する航路である三原瀬戸に、８基の石造の灯台が設置されました。その中の一つの灯台で現役です。

村上海賊の船

大阿武船1/12模型（実寸26m）

※船の大きさは実寸の比率で表しています。

関　船（実寸18m）

小 早（実寸11.10m）

村上海賊の武器

尾道市有形文化財

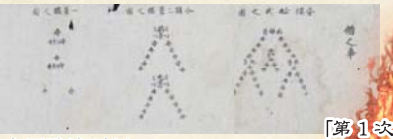
因島村上家太刀（銘 正信）

鎌倉時代　備後三原住正信作
刃長さ 71.2 cm

やがらもがら

海戦時に使用した武器、敵を引っ掛けて船から海中に引き落としたり、海中から引き上げたりした。

村上海賊
マップジオラマ



水軍戦法要領

水軍の戦法に関する要領が書かれている海戦にのぞむ戦隊の隊形

「第１次木津川口の戦い」で織田信長軍を破った船団！

因島水軍城

因島水軍城は、因島村上氏が残した武具や遺品・古文書など歴史資料を展示している資料館です。

水軍のふるさと因島にふさわしいものをと歴史家奈良本辰也氏監修により昭和五十八年（1983）に建設されました。

二の丸（66 ㎡）は展示室、隅櫓（124 ㎡）は水軍資料館として一般に公開されています。

水軍城資料館には、因島村上氏６代当主村上新蔵人吉充が明徳寺に寄進した釈迦の捏槃図や小早川隆景より拝領された甲冑など水軍ゆかりの品々が展示されています。

体験武者　武者姿で記念撮影が出来ます。

『日本最大の海賊』の本拠地：芸予諸島 ―よみがえる村上海賊『Murakami　KAIZOKU』の記憶」― 認定ストーリー

戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた
「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。
理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。
（第２回日本遺産認定 2016.4.25）

因島村上家

因島村上家は、中世瀬戸内海の中心にあって数百年に渡って瀬戸内海の制海を握り、幾多の合戦に参加した他、遣明船の使節達の警護などを行っていました。

特に因島村上氏６代当主村上新蔵人吉充は、弘治元年（1555）、毛利氏と陶氏が戦った厳島合戦で毛利氏に加勢し勝利をもたらしました。また、天正四年（1576）７月の木津川口海戦では、毛利警護船団の一翼を担い、織田信長率いる織田水軍を壊滅させ、毛利氏の勝利に大きく貢献しました。

村上海賊（三島村上当主）

村上吉充
（因島村上氏）

村上景親
（能島村上氏）

村上通康
（来島村上氏）